

笑楽幸

土佐清水市立清水小学校
校長室便り 令和3年2月24日

2月も残りわずか

校庭の梅の花も満開で、春はそこまでやってきているように感じますが、先週は寒い日があったかと思えば、急に暖かく春の陽気を思わせる日もあり、暖かくなるにはもう少しかかりそうです。

早いもので2月も今週で終わりです。今週末にはお別れ遠足も予定しています。今年度はじんべえ公園に行くこととしました。

天気が少し心配ですが、子ども達にとって楽しい行事が無事に終わることを願うばかりです。3月になれば卒業式等の準備が始まります。しっかり見通しを持って生活したいものです。

東日本大震災から10年

13日夜に福島県沖を震源地とする大きな地震がありました。

福島県、宮城県の人達は、テレビのインタビューの中で「10年前の東日本大震災が蘇ってきました。」と言っていました。本当にあの日、あの時を思い出して怖かったらと推測します。大震災の教訓をもとに地震対策をしてきたと思いますが、被害も出ているようで、いろいろな対策をとったからこれで大丈夫…と言う安心はないのだとあらためて思いました。

さて10年前、私は清水小学校に勤務しており、地震が起きた後の様子を職員室でテレビを見ていました。

午後2時46分と言うことで、すでに低学年は下校している児童もいました。当時は刻々と入ってくる映像や情報を見ながら、遠くで起こっている様子を土佐清水の地域に重ねて考えることはできていませんでした。(まさかここまで津波が来るとは…です。)高学年は授業が終わった時に現状を伝え、「今日は早く家に帰り、遊びには行かないように…」との声かけもしたように思い出します。

しかし大津波警報が出され、土佐清水市でも津波が観測されたという情報を地域の人から頂き、職員で市街地を回りましたが、海上保安庁前の道路に海水が打ち上がっているのを見て驚き、家庭連絡をしたり、児童の安全を確かめたことを思い出します。(今では考えられない対応をしていました。)

南海地震発生の危険性が高まる中で、10年前の対応を反省しながら、新たに対応マニュアルを見直し、児童の安全第一を考えてきました。先にも書いたように、これで大丈夫はありません。今年度より2年間県の学校安全総合支援事業(災害安全)の指定を受けて、地域を巻き込んでの取り組みを進めている最中です。

今年度は、『自助』をテーマに家庭会議で防災について学習を進めてきました。来年度は『共助』をテーマに地域を巻き込んで取り組んでいきたいと思っておりますので、声をかけさせていただいたときには、ぜひご協力をお願いします。

今回の避難訓練は…



以前にもお知らせしたとおり、清水小学校では避難訓練の内容についても、考えてきました。

今回は、【休み時間、けが人がいる、避難場所は校舎三階と高台の第一次避難場所を選択する】など様々な条件を付けて実施しました。

実施に際しては、教育委員会や警察署の職員の方に毎回協力していただいていることに感謝します。

さて10時25分緊急地震速報が鳴りました。60名ほどの児童が校庭で遊んでいましたが、全員が、校庭の真ん中に集まり、ダンゴムシポーズです。ジャングルジム付近に児童が一人座ったままで動きません。今回けが人として参加する児童です。

揺れの想定が2分程度で、その間みんなが次の行動を考えています。

「揺れが収まったようです。避難行動をとって下さい。」と放送が入ります。(実際は、電源が入るか…等を考えると、まだまだ改善の余地があります。)

児童は写真のように高台に向けて走り始めます。職員は校庭に残された児童を発見し、ケガをしているので高台への避難を諦めて、三階へ避難することを決め児童を運びました。

休み時間でもあり、校舎内にいた人は、声をかけ合って高台への避難を選択しました。反面、驚いて校舎内で動けなくなっている人や委員会活動をしていて時間が経ち、逃げ遅れた児童は校内にいる先生方が声をかけ、三階への避難を促しました。

すでにここまでで地震発生から10分以上経過しています。土佐清水市への最短での津波の到達時間は18分ですので、迅速な判断が必要になります。

ここで大きな問題は、これまでのように教室からみんなが揃って高台に避難していないので、誰が高台で、誰が校舎内か…また全員が逃げられているのか?などの確認が必要になります。

今回校舎内に残った教職員は、繰り返し校舎内を逃げ遅れた人がいないか声をかけながら回りました。校舎内にはけが人も含めて15名の児童と14人の職員がいました。

トランシーバーを使って人数確認をしますが、高台でも逃げた人達で混乱しているようで、なかなか連絡ができません。訓練と分かっているにもかかわらずこのような状況なら、実際に地震が起きたときにはもっと混乱が予想されることを考えると改善の余地はぜひぶんありそうです。

30分ほどで全員の無事を確認できましたが、今後はできるだけ早く児童の無事を確認できるように繰り返し取り組んでいきたいと思っております。